

第1期西宮市生涯学習審議会 研究報告書

SDGsをテーマとした学習プログラム集



令和4年4月

西宮市生涯学習審議会

目次

| | | |
|-----|--------------------------|----|
| 第1章 | はじめに | 1 |
| 1 | 計画から実践へ | 1 |
| 2 | 実践研究の目的 | 2 |
| 3 | 実践研究の意義 | 2 |
| 4 | 報告書の構成 | 2 |
| 第2章 | 西宮市生涯学習推進計画の具体化にあたって | 3 |
| 1 | グループでの取組み（SDGsのゴールの明確化） | 3 |
| 2 | ビジョンに関連する取組みについての調査研究 | 8 |
| 3 | 各グループの学習プログラム | 9 |
| 第3章 | 企画の実行にあたって | 16 |
| 1 | 様式の統一について | 16 |
| 2 | 学習プログラムの実施 | 16 |
| 3 | 各プログラムの作成・活用とSDGs達成への期待 | 18 |
| 4 | 令和4年度以降の実施について | 20 |
| 第4章 | おわりに | 21 |
| 1 | 問題の定義づけ | 21 |
| 2 | 継続的なプログラムの探索 | 22 |
| 3 | 学習プログラムの評価と活用 | 22 |
| 4 | グループ協働活動の難しさ | 22 |
| 5 | 適応的な問題解決力の学習 | 23 |
| 6 | SDGs達成のための客観的評価や学習資料の必要性 | 24 |
| 7 | 最後に | 24 |
| 資料編 | | 26 |

第1章 はじめに

1 計画から実践へ

令和2年度末に、第1期西宮市生涯学習審議会では、新たな生涯学習推進計画を策定しました。そこには、西宮市の生涯学習の大きな目的として、「学び、つながり、支えあうまち」を掲げています。更に、この目的を達成する視点として、第1に、「学び・人づくり・つながりづくり・地域づくりの循環の促進」と、第2に、「学びを通じた持続可能なまちづくりの推進」をあげました。

この計画では、『「学び』とは、日々の経験や振り返り、そして人との関わりを通して、その人の認識や行動が変わっていくこと』であるとしています。関わりの中での学びとは、「他者との関わりの中で社会参加をしながら取り組む学習」です。この目的の具体的な目標として、4つの方針があげられました。

- 「1 多様な学びの機会の提供」
- 「2 誰もが参加できる学びの環境づくり」
- 「3 つながりささえあう学習の促進」
- 「4 生涯学習を通じた地域づくり・まちづくり」

です。特に、基本方針1では、「生涯学習事業の体系化と情報提供の充実」、「多様なニーズに応える学習機会」とともに、「社会的課題に応える学習機会の拡充」や「大学・民間事業者等における学習の促進」が目標になりました。そして特に、基本方針4からは、「社会的課題や地域課題に応えながら、多様な学習機関が連携し、市民性をはぐくむにはどうすればいいか」という問いが生まれてきました。市民が地域の課題を学びながら、つながりをつくり、支え合う中で、自分自身の市民性をはぐくむような学習とは、具体的にどのようなものか、という問いです。

2 実践研究の目的

そこで、この推進計画の目的と方針に沿いながら、具体的なプログラムを企画し、実践に移していくことが令和3年度生涯学習審議会の活動となりました。つまり、社会的課題である「持続可能なまちづくり」について、実践的な学習モデルプログラムの提示が重要であるという共通の理解を得たのです。そこで、基本方針に沿い、地球規模でと同時に地域レベルでも重要で緊急の解決を図るべき社会的課題として、「SDGs」(Sustainable Development Goals、持続可能な目標)の解決に向けた学習機会の提供に焦点を当て、今期2年目の実践研究として企画と実践に取り組みしました。

本市の学習活動では、「西宮市生涯学習推進計画」に記載した「市民性」をはぐくむことも学習の重要な目的となります。つまり、市民が学びの裾野を広げ、SDGsの目標について理解を深めるとともに、課題解決へ向けたアクションへつないでいくことが、地域活動に取り組むきっかけとなります。そのためにも、市民性がはぐくまれるプログラムを企画することが求められます。具体的には、生涯学習審議会委員が率先して、シチズンシップ(市民性)をはぐくむ基礎講座のメニューとして、SDGsをテーマに学習プログラムを作ろうというわけです。

ただし、周知のように、国際社会の共通目標である SDGs とは、「経済・社会・環境のバランスがとれた発展を実現するために、行政・地域・企業・大学・NGO・市民等のあらゆる利害関係者が参画して課題に取り組み、『誰一人取り残さない』を共通の理念」とするものであり、17 のゴール（目標）と 169 のターゲット（達成基準）があります。これらすべての目標を達成する学習機会の提供を一度に行うことには無理があります。そこで、審議会では、委員の皆さんにどの目標をまず学習機会や学習内容としてとりあげたいかの希望を募り、12 名の委員を 3 つのグループに分けて実践研究を行うことにしました。また、委員すべてが SDGs の内容について専門的知識を有しているわけではないので、審議会では、各グループのテーマの学習も行うこととしました。

3 実践研究の意義

この実践研究には、次のような意義があると考えられます。

第 1 に、委員自身がそれぞれの多様な知見を結集し、様々な活動・分野とつながったプログラムを示すことで、推進計画を多様な社会教育機関や学校での実践につなげることです。シチズンシップ（市民性）をはぐくむ基礎講座として、「誰一人取り残さない」という視点から、障害者のための生涯学習の機会を提供したり、縦割りの教育行政を開かれたものを目指す「社会に開かれた教育」の実現、あるいは「地域学校協働活動」のように、学校と地域社会の連携体制を築く学習のプログラムなどの具体的な実践モデルの構築が、研究では目指されます。

第 2 に、生涯学習の基礎的概念である生涯教育の視点、乳児から高齢者にいたる人生の各段階の教育機会の統合（垂直的統合）と、学校という教育機関だけではなく家庭教育、地域の各担当行政や企業、NPO の連携（水平的統合）の実現です。近年、このような学習のシステムや地域的基盤は、学習のプラットフォームと呼ばれています。より総合的な生涯学習の環境形成を目指した実践プログラムを、SDGs の学習を契機にして創り出していくことです。

第 3 に、市民の一人ひとりが、地域課題の問題解決のための力を習得していくことです。ここでいう市民には、委員を含めて西宮市に住む人、働く人、学ぶ人など西宮市に関わる人々が含まれます。人々が、実践的な学習のモデルプログラムを通じて、地域の問題を認識し、探索し、そこで得た知識やスキル、意欲を活用して解決につなげていく方法を実践的に模索し、対話し、各学習機関や行政機関、企業、NPO、家庭へとフィードバックすることで実践研究の成果を還元し、生涯学習システムの改善につなげていけるのではないのでしょうか。

4 報告書の構成

この報告書では、研究の目的を述べた「はじめに」に続き、第 2 章では、「西宮市生涯学習推進計画の具体化」について、グループでの取り組みや探索活動、各グループの学習プログラムの企画のプロセスを説明します。更に、第 3 章では、各グループによる実施報告と成果と課題、そして、次年度の計画について述べ、最後に「終わりに」として本年度の研究をまとめます。

第2章 西宮市生涯学習推進計画の具体化にあたって

1 グループでの取り組み（SDGsのゴールの明確化）

学習プログラムを構想するにあたり、12人の委員が3つのグループに分かれ、各グループで目指すビジョンやターゲットを協議し、SDGsのゴールを明確にするワークシートを作成しました。

(1) 学習プログラムワークシート

◎はグループリーダー

| Aグループ | ◎本多委員 | 飯干委員 |
|---|---|------|
| | 川本委員 | 森委員 |
| ビジョン 西宮市におけるシチズンシップ力を高め、住みよい暮らしと学びを創造する | | |
| ゴール     質の高い教育を 住み続けられる 気候変動に みんなに まちづくりを 具体的な対策を | | |
| 対象 西宮市内で住み、学び、働く人たち | 課題 <ul style="list-style-type: none"> ・平日又は土日にイベントを開催する場合の参加者数と参加可能なターゲットを想定する。 ・予算がかからない方法を模索する。 | |
| 協力 市内の学舎（保・幼・小・中・高・大等）、公民館地域学習推進委員会、青少年愛護協議会、子ども会協議会など。 | アクション <ul style="list-style-type: none"> ・公民館において、土日に子供たちや保護者を対象としたイベントの開催。 ・市内の学舎で、地域のファシリテーターとして子供たちとの学びや交流活動の実施。 | |
| 将来 <ul style="list-style-type: none"> ・多世代の交流により、成長した子供たちが西宮市内に住み、学び、働きたいと思うことで、良好な文教住宅都市の維持発展が可能となる。 ・地域のつながりの空白地帯をゼロにすることを目指し、人口減少社会への対応を実施する。 ・自分の地域は自分たちでより良くすることを目指し、西宮市におけるシチズンシップの機運を醸成する。 ・全国で一番、誰もが住み、学び、働きたいと憧れる都市（西宮市）になる。 | | |

| | | |
|--------------|-------|--------|
| Bグループ | ◎服部委員 | 田中由紀委員 |
| | 大部委員 | 立田委員 |

ビジョン

大きく2つのビジョンを設定することとする。

(1) 髪型、ファッション（学校の制服を含む）など、本人の自由な選択によらない、社会的な規範/ルールがもたらすジェンダー不平等、「生きづらさ」の解消。

(2) ジェンダー不平等に由来する「働きづらさ」の解消。より具体的には、社会が規定したジェンダー役割（例えば、「女性が子育てをする、男性が外で働く」といったもの）によって、教育機会や社会的交流機会へのアクセスが制限されている人々に対して、そうした場へのハードルを下げることによって、学びや交流へのアクセシビリティ（接近可能性）を高めること。

ゴール SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



質の高い教育を 質の高い教育を ジェンダー平等を 人や国の不平等 平和と公正を
 みんなに 実現しよう をなくそう すべての人に

対象

上記(1) →市内の中学生。生徒会や学級委員などの役職にあって学校内で中心的な立場にある生徒以外も入れたい。

上記(2) →子育て中にも、学びや交流を継続したいパパママ。子供同伴で参加できるように。

課題


(1) 学校生活の中に潜んでいるが、多くの人が意識することのないジェンダー・フリー問題（e.g. 髪型、ファッションなど）ゆえに、生きづらい個人の存在。

「声の小ささ」や「問題のマイナーさ」ゆえに、顕在化しにくい隠れたジェンダー・フリー問題の存在。

(2) 働くことや学ぶことへのニーズを持ちながら、教育機会や社会的交流機会へのアクセスを制限されている人々の存在。

MBA（社会人を対象とした経営大学院）に代表されるように、成人以降の学習が時間と金銭と（人並外れた）意欲がある人へのみに対して開かれていること。

| | |
|---|--|
| <p>協力</p> <p>市内あるいは近隣の大学や専門機関。</p> <p>その他、公民館地域学習推進委員会、青少年愛護協議会など。</p> <p>(1) については、市内の中学校の協力が必要になる。また講師派遣及び実施場所として大学との連携が必要になる。</p> <p>(2) オンラインを前提としているため、会場については連携の必要なし。講師の候補は市内及び近隣大学に所属する専門家。</p> | <p>アクション</p> <p>(1) 学校において生徒たち、教員たちが準備すべきジェンダー・フリー理念にあたるものを、生徒自身が作る。その過程を通じて、彼ら彼女らにジェンダー問題の難しさ、その身近さを理解してもらう。</p> <p>(2) 子育て中のパパママが、①自宅から学びにアクセスし、かつ②その場を通じて、悩みを共有したり、気軽に相談できる社会的つながりを形成したりするような場を提供する。</p> |
| <p>将来</p> <p>(1) ジェンダー・フリー問題の根源は、人々の悪意というよりも、むしろそういう問題があること自体への想像力の欠如にある。学校の現場で、どんな世代よりも高い感度でこの問題に接している中学生の目線から、ボトムアップ的に検討することで、多くの大人や「声の大きな」人たちの目に映らない、ジェンダー・フリー問題への新しい視点を抽出したい。</p> <p>その結果として、多くの人々がジェンダー・フリー問題に対して、想像力を持つことができるようになればと考えている。</p> <p>(2) この講座では、パパママに対して、①ビジネスの理論や考え方についての本格的な学習の世界への誘いと、②同じ境遇にあるパパママたちとのつながりの場の提供という2つの機能を同時に提供することを目指す。</p> <p>その結果、受講生自身が更なる学習を自ら続けること、更には、受講生同士が自主的に学びの機会や情報共有の機会を形成することにつながることを期待される。このような①一人の個人の中で学びが更なる学びへとつながる、②ある個人の学びが、他の人の学びにつながるという二重の意味での学びの連鎖が起こることを、我々が目指す未来である。</p> | |

| | | |
|---|-------|------|
| Cグループ | ◎吉田委員 | 三澤委員 |
| | 田中理委員 | 佐藤委員 |
| ビジョン <p>(1) 誰もが障害のあるなしにかかわらず、共に学び相互理解（まずは知ること）へつながる地域を目指す。</p> <p>(2) 北風（お互いのことを知る勇気）と太陽（理解する温かい心）がある幸せで温かい地域づくり。</p> | | |
| ゴール  <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;"> <div style="text-align: center;">  <p>質の高い教育を みんなに</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>ジェンダー平等を 実現しよう</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>人や国の不平等 をなくそう</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>住み続けられる まちづくりを</p> </div> </div> <p>質の高い教育を みんなに ジェンダー平等を 実現しよう 人や国の不平等 をなくそう 住み続けられる まちづくりを</p> | | |
| 対象 <p>障害のある人もない人も</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発達障害・軽度知的障害のある人（療育手帳をあえて取得しない保護者もいる） ・身体・精神に障害のある方も含める | | |
| 課題 <p>※学校卒業後における、障害者の学びの場の充実を図る必要がある。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特別支援学校から高等教育機関への進学率は約 4%、ほとんどの障害者が就職又は障害福祉サービス（就労移行支援・就労継続支援）などに進んでいる。 ・知的、身体、精神に障害を持つ方に、地域の中で社会人として活躍成長してもらいたい。 ・障害者の生涯学習に求められることは、社会を育てることと学習機会をつくること。 ・西宮市では「青年生活学級」を S47 年から実施しているが、コロナ禍等で計画通り実施できず。最近はボランティアの高齢化もあり、今後、青年生活学級をどうしていくのが課題。 <p>《現状を示すアンケート結果》</p> <p>(1) 世論調査【「障害者に関する世論調査」(H29)内閣府】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・障害者への差別はあると思う：83.9% ・障害のある人への理解が進んでいない：41.5% ・障害のある人への配慮が必要：85.7% ・障害のある人への生涯学習の充実を望む：48.1% <p>(2) 障害者本人へのアンケート</p> <p>【「障害者本人等への学校卒業後の学習活動に関するアンケート調査」(H30) 文部科学省委託事業】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・共生社会の実現に向けて生涯学習が充実されること：81.1%賛同 ・一緒に学習する友人・仲間がない：71.7% | | |

- ・メディア・学習拠点別の活用経験が自宅での学習活動（書籍など）：57.6%
- ・メディア・学習拠点別の活用経験が自宅での学習活動（インターネット）：42.4%
- ・メディア・学習拠点別の活用経験が自宅での学習活動（テレビやラジオ）：42.3%

※公民館や生涯学習センターなど、公的な機関における講座や教室のニーズが高い。

(3) 大学関係【「開かれた大学づくりに関する調査」(H29) 文部科学省委託事業】

- ・障害者の生涯学習に関する取組みを実施：5.7%
- ・障害者の方に関する公開講座の実施有無：3.2%

協力

- ・みんなの大学校西宮校
- ・西宮スポーツセンター
- ・西宮市スポーツ推進協議会
- ・西宮市社会福祉協議会
- ・西宮芸術文化協会
- ・西宮市美術協会
- ・ボランティア(市民・大学生)

アクション

- ・就労、生活へ向けての知識やスキル講座
- ・文化芸術等講座
- ・スポーツ等講座

将来



- ・障害は人ではなく、社会の側にある。地域住民の一人ひとりが、障害のある人たちが遭遇する社会のバリアを自分のこととして理解し共有できれば、自分自身や家族、友達をも包括する社会全体を暮らしやすくすることに繋がっていく。
- ・誰もがいずれ高齢化とともに心身に支障をきたすことが考えられるので、人は人にやさしくなれる⇒温かい社会になっていく。
- ・生涯学習での学びを継続⇒いろんなことを知る⇒わかる(理解)する⇒利用、使える⇒悟る という好循環ができる。
- ・障害のある人が生涯学習プログラムを通じて、いろいろ人と関わることにより、知り合いが増え続ける。他人を信じることを確認できると、将来どこかで何かによって傷ついても、レジリエンスが育つことになる。人生には失敗はない、ただ学びがあるだけと思える。
- ・保護者も頼れるご近所さんが増えていき、子離れしていく準備になる。
地域の人たちと、ゆるやかに長く続くつながりを得ることで、子供たちが大人になったときにいろんな暮らし方(住み方、働き方、遊び方)を選べるようになる。
- ・日本(日本人)のいいところ、日本の文化・慣習、ご近所さんを大事にする等、お互い様のつながりである互酬性の規範をとり戻すことが大事。日本は今まで、コミュニティの大人(=社会)が子供たちを育ててきた。
- ・障害のある人たちの目線で考えると、最終的に共生社会をどう歩むかのイメージがクリアになる。
- ・障害という全体像について、当事者ではない人がもっと理解できるように発信していける仕組みをつくるのが大切である。

2 ビジョンに関連する取組みについての調査研究

学習プログラムを企画・立案していく上で、関連する取組みの現状について、下記の通りヒアリングを実施しました。

(1) 男女共同参画施策（男女共同参画推進課）


働く場における男女共同参画の推進や、次世代に向けた男女共同参画の推進について、市の取組み状況を学びました。また、「西宮市男女共同参画センター ウェーブ」で、女性のための相談室、啓発冊子の配布、各種講座の開催など、様々な取組みを実施している旨の案内がありました。

| SDGs 5、8に関連する重点施策と主な取組 | 西宮市男女共同参画センターウェーブ |
|--|---|
| <p>■2 働く場における男女共同参画の推進（女性活躍推進計画）</p> <ul style="list-style-type: none"> ワークライフバランス、ハラスメント、女性活躍、男性育休等のテーマで「市内企業向け研修講師派遣」 男女共同参画センターウェーブで「女性向け起業講座」や、再就職等の「チャレンジ相談」 <p>■3 次世代に向けた男女共同参画の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> 市内中学・高校向けデートDV防止授業、大学出前授業 LGBTQ（性の多様性）に関する啓発 | <ul style="list-style-type: none"> ■場所：西宮市高松町4-8 プレラにしのみや（英文センター横） ■女性のための相談室（悩み相談、法律、チャレンジ）・・・R2：1,828件 ■悩み相談（月～ホ～土）・・・R2：1,564件（夫婦、母娘（親子）関係、DVなど） ■法律相談（毎月第2金）・・・R2：49件（養育費、財産分与など） ■チャレンジ相談（毎月2回）・・・R2：25件（自己発見、再就職、資格、起業など） ■啓発冊子の作成 ■R2・・・ウェブおすすめ図書・DVD ■スポーツ、母娘関係、男性関係、DVなど ■男女共同参画推進のための啓発講座実施 ■学習室の利用 ■西宮市ホームページ番号・・・68908965 ■ウェブ公式フェイスブック https://www.facebook.com/nishi.wave   |

(2) 「障害者就労生活支援センター アイビー」（社会福祉法人西宮市社会福祉協議会）

障害者の就労生活の支援に関する事業や、アイビーの果たす役割について説明を受けました。

「はたらく『場所』や『役割』はその人によって様々でいい」「社会生活の中こそ、その人の価値がある」などの説明や、就職に向けて必要なこととして、自分自身のことを知り、どんなことができるか、どういうことをやりたいのか、「自分の特性を理解する」ことである、などのお話をお聞きしました。

| 「はたらく」≠ 就職 | 高校(高等部)を卒業後の進路 |
|--|---|
| <p>「はたらく」とは</p> <p>社会におけるその人の役割</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ はたらく「場所」や「役割」はその人によって様々でいい ・ 社会生活の中こそ、その人の価値がある ・ その価値を発揮する場所や役割を探すが、進路選択の重要性である |  <p>高校(高等部)卒業</p> <ul style="list-style-type: none"> 就職「はたらく」 進学(大学) 職業訓練校 福祉施設(作業所) <p>ステップアップ</p> <ul style="list-style-type: none"> 就労継続支援(A型) 就労移行 自立訓練 就労継続支援(B型) 地域活動支援センター 生活介護 |

(3) 就労移行支援事業所「みんなの大学校 西宮校」（市内事業所）


カードゲームなどのあそびを通じて、自分が夢中になれることや好きなことを自己表現し、他者に共有する経験から、「もっと他者と関わりたい」「伝えたい」という欲求が生まれ、社会参加力の向上につながる、との説明がありました。

3 各グループの学習プログラム

毎回の審議会でグループワークを重ね、Aグループは子供、Bグループは中学生や保護者など、Cグループは障害者のある人・ない人を対象としたプログラムを立案し、計画書にまとめました。

(1) 学習プログラムの計画書


Aグループ①

| | | | |
|--|---------------------|--|---|
| 企画講座名 まちの再発見！ 防災まちあるき | |  <p>質の高い教育をみんなに 住み続けられるまちづくりを 気候変動に具体的な対策を</p> | |
| 形式 講義、体験活動、ワークショップ、展示 | 回数 1回講座 | 参加予定人数 約30人 | 対象者 子供（小学生）、保護者 |
| 実施時間 180分 | 実施場所 公民館等 | 講師など ・外部講師 （兵庫県子ども会連合会から講師 1人） | スタッフの人数 約10人（兵庫県子ども会連合会から派遣リーダー6人、その他学生ボランティア等4人） |
| 必要経費 （ 53,000 ）円 内訳：講師謝金：@11,000円×2人×1回=22,000円 ボランティア謝金：3,000円（@1,000円×3h）×10人×1回=30,000円 消耗品費等：@1,000円×1回=1,000円 | | | |
| 講座の内容 目標 防災・減災の視点で自分たちの住むまちを歩き、災害に強いところや弱いところを発見する。多様な視点でまちをとらえ、チームごとに歩いてまとめるという一連の流れを通じて、災害に強いまちや暮らしのあり方を考える。 | | | |
| プログラム案 13：15 はじまり（今日は何をするか、わかる時間） 14：45 みんなのことがわかる時間 （ゲームを通じて自己紹介や班分け） 14：15 まちを歩いてたんけんする時間 〈災害が起こっても大丈夫か？危険な所はないか？〉を探す 15：05 まちを歩いて見つけたものをまとめる時間 15：35 まちを歩いて見つけたものを分かち合う時間 16：05 ぼくたち、私たちに何ができるかを考える時間 16：30 おしまい あとかたづけ ※持ち物：マスク、帽子、タオル、筆記具、雨具（合羽） | | | |


Aグループ②

| | | | |
|---|---|--|---|
| <p>企画講座名</p> <p>公民館のスペースを活用した学生によるポスター発表 ～地域について考える～</p> | |   <small>質の高い教育を みんなに</small> |  <small>住み続けられる まちづくり</small> |
| <p>形式</p> <p>ポスター展示</p> | <p>回数</p> <p>1回講座</p> | | |
| <p>参加予定人数</p> <p>未定</p> | <p>対象者</p> <p>全ての人</p> | | |
| <p>実施時間</p> <p>一定期間</p> | <p>実施場所</p> <p>公民館・図書館等</p> | | |
| <p>講師など</p> <p>グループ内講師 (武庫川女子大学 講師 本多 千明)</p> | <p>スタッフの人数</p> <p>約7人 (ポスター展示作業の為)</p> | | |
| <p>必要経費</p> <p>(1,000) 円</p> <p>消耗品費等 : @1,000 円 × 1回 = 1,000 円</p> | | | |
| <p>講座の内容</p> <p>目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 掲示物により、学生と市民の交流を行う。 ・ 学生に、市民の方による感想をフィードバックする。 <p>プログラム案</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 西宮市の大学生が作成した、西宮市内に関してまとめた資料をポスター形式にして展示し、西宮市内の公民館の空きスペースに設置する。 ・ コロナ感染が拡大する中、対面での交流は難しいと思われるため、ポスターの展示により、学生の成果物を市民の方にご覧頂き、感想を用紙に記載していただく。 | | | |


Bグループ①

| | | | |
|--|-------------------------|--|---|
| 企画講座名 子育て中のパパママのためのビジネス講座 | |  質の高い教育を みんなに ジェンダー平等を 実現しよう 人や国の不平等 をなくそう 平和と公正を すべての人に | |
| 形式 学習会 | 回数 連続講座（6回講座） | 参加予定人数 数名～10名程度 | 対象者 産休・育休中のパパおよびママ |
| 実施時間 60分及び90分 | 実施場所 オンラインなど | 講師など ・外部講師（経済・経営を専門とする大学教員およびビジネスパーソン） ・グループ内講師（服部） | スタッフの人数 チャットやブレイクアウトルームの管理＋参加者リストや事前の資料のやりとりなどの担当者1～2名程度。 |
| 必要経費 （166,000）円 内訳：講師謝金：@20,000円×1人×4回=80,000円 @30,000円×1人×2回=60,000円 活動ボランティア謝金：1,000円（@1,000円×1h）×2人×4回=8,000円 1,500円（@1,000円×1.5h）×2人×2回=6,000円 託児ボランティア謝金：@1,000×2人×3回=6,000円 消耗品費等：@1,000円×6回=6,000円 | | | |
| 講座の内容 目標 （1）自宅にいながらにして学びにアクセスできるような場を提供すること。 （2）単に知識を身につけるにとどまらず、この場を通じて悩みを共有したり、気軽に相談できる社会的つながりを形成したりすること（孤独の解消）。 （3）家庭における性役割分業についての議論を行うこと。 ※（1）については、時間の制約上、各分野についてのアドバンスドな知識を提供することはできない。ビジネスに関する様々な知識のうち、既存の環境ではアクセスが難しい（あるいは独学では学ぶことが難しい）内容について、更なる学びを継続することにつながるような導入的なコンテンツを提供する。 | | | |
| プログラム案 （事前にアンケートを実施） ①イントロダクションおよびアイスブレイク ＋ お悩み共有タイム [60分] 講師：服部泰宏（神戸大学） ②お金の仕組み1：家計管理の考え方 [60分] ③お金の仕組み2：企業の財務管理の考え方 ＋ お悩み共有タイム [90分] ④組織と人のマネジメント1：組織の成り立ちとそのマネジメント [60分] ⑤組織と人のマネジメント2：組織の中の個人の理解 ＋ お悩み共有タイム [90分] 講師：服部泰宏（神戸大学） ⑥自分自身のマネジメント：キャリアデザインの考え方 [60分] ※②③④⑥は、外部講師による。 ※一連の講座の後に、「更なる学習のためのブックガイド」や「よりアドバンスドな講座リスト」などを提示し、どのような学びを続けていけば良いのかということをクリアにする。 | | | |



Bグループ②

| | | | |
|---|---|--|--|
| 企画講座名 ジュニアリーダーによるジェンダー・フリー理念の作成プログラム | |  <p> 4 質の高い教育をみんなに 5 ジェンダー平等を実現しよう 10 人や国の不平等をなくそう 16 平和と公正をすべての人に </p> | |
| 形式 ワークショップ | 回数 連続講座（6回講座） | | |
| 参加予定人数 15名程度（5名ほどのグループ×3つ） | 対象者 市内の中学校から推薦された、性別・居住エリア・価値観において多様な中学生。メンバーには生徒会や学級委員などの、学校内で中心的な立場にある生徒以外も入れる。 | | |
| 実施時間 各60分ほど（学校の授業時間に準じる） 成果報告は90分 | 実施場所 市内の大学又は神戸大学 | | |
| 講師など ・グループ内講師 ・外部講師：（公財）日本女性学習財団のキャリア支援デザイナーなど | スタッフの人数 4人（3つのグループにそれぞれ1人） | | |
| 必要経費 （162,000）円 内訳：講師謝金：@20,000円×1人×5回=100,000円 @30,000円×1人×1回=30,000円 活動ボランティア謝金：1,000円（@1,000円×1h）×4人×5回=20,000円 1,500円（@1,000円×1.5h）×4人×1回=6,000円 消耗品費等：@1,000円×6回=6,000円 | | | |
| 講座の内容 目標 学校において生徒たちが、そして教員たちが準じるべきジェンダー・フリー理念にあたるものを、生徒自身が作る過程を通じて、ジェンダー・フリー問題の難しさ、その身近さを理解してもらおう。結果として提示される理念自体も重要な成果物ではあるが、それ以上に、上記のような過程そのものに重点を置いたプログラムにしたい。 生徒たちの目に映る現実を、飾らない言葉で表現することを通じて、この問題について大人も考える機会とする。 | | | |
| プログラム案 ①イントロダクションおよびアイスブレイク [60分] 講師：立田慶裕（神戸学院大学） ②ジェンダー・フリー問題に関する専門家からのインプット [60分] ③身の回りの「ジェンダー・フリー問題」の共有 [60分] この日までに、参加生徒たちに、身の回りの「ジェンダー・フリー問題」についての事例の収集を行ってもらおう。 ④⑤理念作成のためのワークショップ [各60分] ⑥「理念」の発表会 [90分] ※審査員およびコメンテーターとして、教育学を軸にジェンダーなどの専門的研究者、参加学生が所属する学校の教員、PTA関係者などをお招きする。 | | | |

Cグループ①

| | | | |
|---|--|---|--|
| 企画講座名 就労・生活へ向けての知識やスキル講座 | |  質の高い教育を みんなに ジェンダー平等を 実現しよう 人や国の不平等を なくそう 住み続けられる まちづくりを | |
| 形式 学習会、ワークショップ | 回数 連続講座（2回） | | |
| 参加予定人数 10人程度 | 対象者 発達障害・軽度の知的障害者、保護者、大学生、一般市民 | | |
| 実施時間 90分～120分 | 実施場所 公民館など | | |
| 講師など 外部講師（みんなの大学校）1人 | スタッフの人数 サポーター5人 | | |
| 必要経費 （ 62,000 ）円 内訳：講師謝金：@20,000円×1人×2回=40,000円 活動ボランティア謝金：2,000円（@1,000円×2h）×5人×2回=20,000円 消耗品費等：@1,000円×2回=2,000円 | | | |
| 講座の内容 目標 <ul style="list-style-type: none"> 一人でも多くの方が「社会」へ出ていき、他者と協働できたり、頼れる場所があることを知ったり、友人をつくるきっかけとなる講座とし、「楽しみ」を味わってもらおう。 一般市民の障害に対する「知る」を広め、参加者と支えてくれる、一般市民の相互理解を促進する。 プログラム案 <ol style="list-style-type: none"> あそびの実践 「ゲーム×ビジネスマナー」 <ul style="list-style-type: none"> ゲームで非言語情報（ことば以外）の優位性を体験する 対話で体験をシェアする あそびの実践 「ゲーム×自己理解」 <ul style="list-style-type: none"> ゲームで視点の切り替えを体験する 言い換遊びの後、リフレーミング（対象の枠組みを変えて別の感じ方を持たせること）について学ぶ 他者視点を体験する 参加者同士で短所を長所に変えあうワークをする | | | |

Cグループ②

| | | | |
|---|----------------------|--|----------------------------------|
| 企画講座名 (文化芸術等講座) 「正方形からこんな形ができるよ」 | |  | |
| | | <small>質の高い教育をみんなに ジェンダー平等を実現しよう 人や国の不平等をなくそう 住み続けられるまちづくりを</small> | |
| 形式 ワークショップ | 回数 1回講座 | 参加予定人数 30人程度 | 対象者 障害のある人・ない人（大人も子供も） |
| 実施時間 90分 | 実施場所 公民館など | 講師など 外部講師（西宮芸術文化協会、美術協会等） | スタッフの人数 ボランティア3人 |
| 必要経費 (37,500) 円 内訳：講師謝金：@20,000円×1人×1回=20,000円 活動ボランティア謝金：1,500円 (@1,000×1.5h) ×3人=4,500円 手話通訳謝金：@6,000円×2人×1回=12,000円 消耗品費等：@1,000円×1回=1,000円 | | | |
| 講座の内容 目標 <ul style="list-style-type: none"> ・一般市民の障害に対する「知る」を広める。 ・参加者と支えてくれる一般市民の相互理解を促進する。 プログラム案 <ワークショップ「形の発見」>（1人10点作る） <ul style="list-style-type: none"> ・正方形（1辺10cm）の黒画用紙を2枚に切る。 ・二つの紙片を接して新しい形をつくって台紙に貼る。  （重ねたり離したりするとダメ。接すること。） <ul style="list-style-type: none"> ・全員の作品を展示する。 ・全員の作品から自分がおもしろいと思う作品を選ぶ。 ・全員がそれぞれ「なぜその作品を良い」と思ったのか発表する。 ・自分と他者との感じ方の違いや、同じだと交流を通して新たな気づき。（表現することとはどういうことなのか）がある。 ※連携・協力が可能な講座等について 宮水学園の講座、青年生活学級の講座、特別支援学級の授業 など | | | |

Cグループ③

| | | | |
|--|--|---|--|
| <p>企画講座名</p> <p>ボッチャ体験会 ～生涯スポーツ、レクリエーションに最適！～ （同時開催：体力測定会）</p> | |      <p>質の高い教育を みんなに ジェンダー平等を 実現しよう 人や国の不平等 をなくそう 住み続けられる まちづくりを</p> | |
| <p>形式</p> <p>体験講座</p> | <p>回数</p> <p>1 回講座</p> | | |
| <p>参加予定人数</p> <p>30～50人程度（先着順）</p> | <p>対象者</p> <p>市内在住の方 ※年齢や障害の有無・程度は問わない ※小学生以下は保護者同伴</p> | | |
| <p>実施時間</p> <p>120分</p> | <p>実施場所</p> <p>公民館講堂 体育館 など</p> | | |
| <p>講師など（下記で可能。道具も貸出可能）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スポーツ推進協議会ユニバーサルスポーツ部 ・西宮スポーツセンター指導員 ・総合福祉センター事業課 など3～4人 | <p>スタッフの人数</p> <p>ボランティア（受付・準備等）8人</p> | | |
| <p>必要経費</p> <p>（ 69,000 ）円</p> <p>内訳：講師謝金：10,000円（@5,000円×2h）×4人×1回=40,000円 活動ボランティア謝金：2,000円（@1,000円×2h）×8人×1回=16,000円 手話通訳謝金：@6,000円×2人×1回=12,000円 消耗品費等：@1,000円×1回=1,000円</p> | | | |
| <p>講座の内容</p> <p>目標 参加者と、支えてくれる一般市民の障害に対する相互理解を促進する。</p> <p>プログラム案</p> <p>＜ボッチャ体験＞</p> <p>会場準備 9:00 受付設置、コート設置、道具準備など 受付開始 9:30～ 参加者集合 9:50～ 参加者を集めて講座の説明、準備体操 講座開始 10:00～ 講師より簡単な説明の後、投げる練習 10:15～ 講師よりルール説明後、試合形式でルールを教えもらいながら試合 11:00～ 自分で考えながら試合を楽しむ 11:45～ 講師よりコメント、質疑応答 片付け 12:00～ 片付け開始（その後に反省会：反省点を話し合い、次回につなげる）</p> <p>＜同時開催：体力測定会＞ （随時）</p> <p>片足立ち、立ち幅跳び、長座体前屈、上体起こし、壁立て伏せ、握力 など</p> | | | |

第3章 企画の実行にあたって

1 様式の統一について

今回、学習プログラムを企画立案するにあたっては、(a)SDGsのゴールを目指したワークシート、(b)実施計画書、(c)実施報告書を、各統一様式にて作成しました。このことにより、SDGsのゴールを常に意識するように心がけました。

2 学習プログラムの実施

7つの学習プログラムのうち、兵庫県子ども会連合会・西宮市子ども会協議会からの支援を受けて、Aグループ①の「まちの再発見！防災まちあるき」を11月に実施しました。

この講座では、これからの地域を担う子供たちと保護者に、体験活動をとおして、災害に強いまち・みんなが住み続けたいと思うまちを目指し、命や地域を大切に思うやさしい心をはぐくむきっかけとなりました。次頁では、「まちの再発見！防災まちあるき」の実施報告書を掲載しています。コロナ禍で参加者が少なかったですが、県・市・地区の子ども会との連携や、学生ボランティアとの協働など、机上では得られない気づきがたくさんありました。

また、子供たちが作成した成果報告については、後日、鳴尾公民館ロビーに展示し、展示を見た方にシールを貼ってもらい、感想をもらえるよう工夫をしました。



「まちの再発見！防災まちあるき」の展示（鳴尾公民館）

学習プログラムの実施報告書 (Aグループ①)

| | |
|---|--|
| <p>講座名</p> <p>「まちの再発見！ 防災まちあるき」</p> | <p>SDGsゴール</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;">  <p>質の高い教育を みんなに</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>住み続けられる まちづくりを</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>気候変動に 具体的な対策を</p> </div> </div> |
| <p>当初の課題・目的</p> <p>これからの地域を担う子供たちに、楽しくまちを探検して、命や地域を大切に思うやさしい心を育む体験活動を実施し、SDGsや防災について学ぶ。また、災害に強いまち、みんなが住み続けたいと思うまちを目指し、まちでのよりよい暮らしを考えるきっかけづくりになる学びをする。</p> | |
| <p>講座概要</p> <p><実施日及び実施場所> 2021年11月28日(日) 鳴尾公民館とその周辺</p> <p><参加者> 鳴尾地区子ども会</p> <p><参加者数> 26名(子供5名、保護者4名、大学生リーダー4名、その他スタッフ等13名)</p> <p><講師> 兵庫県子ども会連合会</p> <p><経費> 兵庫県子ども会連合会及び西宮市子ども会協議会からの助成金により実施。</p> <p><講座の内容></p> <ol style="list-style-type: none"> ①防災まちあるきについての概要説明 ②チームに分かれてまちを見て歩き、危険なところがないか、避難所などを探したり(写真を撮る)、地域の人にどんな備えをしているかなどインタビューをしたりする。 ③まちを歩いて見つけたものを模造紙にまとめる。 ④体験から感じたことを振り返り、発表する。 | |
| <div style="display: flex; justify-content: space-around;">    </div> | |
| <p>成果・工夫した点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子供といろいろな発見ができたほか、子供たちが自分でまちの人にインタビューすることができた。 ・備えをしていない人が多いことが分かった。 ・体験から感じたことをふりかえり、参加者同士で共有できた。 | <p>苦労した点・今後の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルスの感染防止について、十分な対策をとりながら実施をした。 ・今年度は兵庫県子ども会連合会、西宮市子ども会協議会からの助成により実施したが、次年度からは市の予算により実施する。 |
| <p>参加者(保護者)の感想</p> <p>これからの時代を担う子供たちに、楽しくまちを探検して、命や地域を大切に思うやさしい心をはぐくむ体験活動になるようにと願い、この事業を実施した。今は何が起こるかかわからない時代なので、子供が学校に行っている時、休日で家族がバラバラの場所にいる時など、色々なパターンを想定して『災害だけでなく、何かが起こった時どうするか』を家族で話し合い、わかるところに書き出しておこうと思う。核家族の時代だが、近隣との普段からのつながりも大事だなと感じた。</p> | |

3 各プログラムの作成・活用と SDGs 達成への期待

各グループでは、プログラムを作成する過程で、どのようにその活用を図ればいいのか、また、SDGs の各目標達成のために、西宮市に今後どのようなことを期待するかについて次のような意見をいただきました。

【Aグループ】

(1) 学習プログラムの作成と活用について

- 地域の担い手の高齢化等により、地域のつながり、コミュニティが低下しているといわれる中、次世代を担う子供たちに“防災”という観点から多世代（大人と子供）が地域で学習をして、自分たちのまちを好きになって、住み続けてもらいたい想いで実施しました。この動きは、他の地域にも波及し、私の地域でも先般全世帯アンケートを実施したところでした。災害時のこと（防災）に要望（関心）が高かったので、地域の青少年愛護協議会等各団体と連携し取り組もうとしています。
- SDGs「4・11・13」のゴールを目指しました。子供の社会性、協調性、ふるさとを愛する心の育成や、コミュニケーションが生きる力（問題解決力）を高めるため、今回、「地域の備えを学ぼうさい！『まちの再発見！防災まちあるき』」を実施しました。楽しくまちを探検して、命や地域を大切に思うやさしい心をはぐくむ体験活動になるように、活用できたと思います。
- 西宮市子ども会協議会と連携して、鳴尾周辺のまちあるきのプログラムを実施しました。参加した子供たちと一緒に、住み慣れた地域を大人と一緒に歩く取組みは、防犯や防災の取組みのためにとっても良い取組みであるかと思いました。学校教育では、地域住民や地域の資源を活用して、教育活動を行うことが目指されているため、今回の取組みを参考に、様々な地域でも実施できるプログラムであるかと思います。地域を歩く際には、地域の歴史についても知ることになります。鳴尾周辺は海から近く、阪神淡路大震災の影響もあるため、津波の警報装置が公園に設置されていました。また、海拔から何メートルであるかを記す案内もありました。自分たちが住む地域を実際に歩くことにより、老若男女が会話をし、それぞれの視点から気づくことを写真に撮り、振り返りの時間を持つことにより、次に活かせることができると思いました。

(2) SDGs 達成に向けての西宮市への期待

- 最近、コロナの話題以外では、「SDGs」の話題をよく見聞きするようになりました。学校・地域・民間企業・官公庁等でそれぞれの立場での取組みがなされてきています。学校では学年に応じて、様々な学習に取り組んで、次世代を担う子供たちに SDGs に関わる学習を行っています。また、地域では、学校・各地域団体等と連携して、「持続可能なまちづくり」に向け動いています。
「地域が変われば市も変わる」の想いで活動していきたいと思います。西宮市は地域活動が活発ですので、SDGs の達成も期待できます。

- 西宮市は、「環境」と「学習」を組み合わせ、全国初の「環境学習都市宣言」を行いました。防災と環境のつながりを考えることも大切です。持続可能な安心・安全なまちづくりを目指して、Aグループが実施した「まちの再発見！防災まちあるき」のプログラムは、これから市の各地区に広げていき、誰もが住み続けられるまちづくりを目指して実施して行ってほしいと思います。
- 西宮市では、SDGsの目指す17のゴールを達成するために、自治体としてどのような取り組みができるのか、それぞれの施策と関連づけた目標設定がされています。第5次西宮市総合計画の各施策分野に、SDGsの目指す17のゴールが関連付けられており、特に、「子供・子育て支援」や「人権・多文化共生・平和」の施策については、より多くの項目で関連付けられています。西宮市は、全国で屈指の住みよい街として知られており、子育て支援や人権・多文化共生に配慮することが、西宮市の知名度を高めるだけでなく、付随してSDGsの各目標を達成することにつながるのかと思います。今後も西宮市での様々な施策が、多くの地域住民の方と共に取り組まれることを、大いに期待したいと思います。

【Bグループ】

（1）学習プログラムの作成と活用について

- 市立中学校では従来の男子用、女子用の制服から、ジェンダーレスを意識した制服の導入が進んでいます。PTA等でも講演会や学習会でLGBTQについて取り上げられる場面が多々あります。次世代を担う子供たちのセクシャルヘルス、セクシャルライツが尊重されることは、誰もが自分らしく生きられる社会の構築につながると考えます。また、子供たちには本プロジェクトを通して議論ではなく、対話によるコミュニケーションを実践的に学ぶことも期待しています。
- 「子育て中のママとパパ向け講座」については、この講座はオンラインでの学習を可能としています。①自宅での学びへのアクセスができることや、②悩みの共有や気軽な相談の場、社会的つながりの形成が期待されます。

（2）SDGs達成に向けての西宮市への期待

- 全てのグループが「4 質の高い教育をみんなに」を目指すゴールの1つにあげています。西宮市ならではの視点で質の高い教育環境を整えていただきたいです。特に学齢期の子供たちのために、子供の居場所づくりの充実や、少人数制学級の早期実現などを期待しています。学校・地域・家庭に見守られながら質の高い教育を受けた”みやっこ”は、すべてのSDGs達成へアプローチすることが容易であると考えます。
- 子供だけではなく、SDGs達成に向けての西宮市には、親への学習機会の拡大を期待します。オンライン講座の開発は、多くの親にとって、学習の機会を大きく広げる可能性があります。

【Cグループ】

(1) 学習プログラムの作成と活用について

- 障害のある人に関わる学習プログラムの作成を主に取り組みました。障害のある人との関わりもなく知識もない私にとって難しい課題でした。プログラムの活用に関しては、とにかく実施することで良かった点、悪かった点を把握でき、次回につながるすることができます。問題は、いかに参加者を集めるか、多くのボランティアを集めることが大事になると考えます。
- 西宮市生涯学習推進計画の4つの方針をもとに、具体的なプログラムの企画・実践が重要であると、共通認識できたと思います。個々のプログラムが作成段階と活用後、多様な他分野との関わりで新たな課題へと進展することが大事です。

(2) SDGs 達成に向けての西宮市への期待

- 縦割りを無くして横のつながりを広げていくのが大事だと考えます。今回の学習プログラムの作成は、公民館の活用も視野に入っていたと感じていましたが、多くのボランティアを集めるのは大変だと感じます。同じ部局のスポーツ推進課と手を組み、スポーツクラブ21を活用するのも一つの手だと思います。
- 従前より地域活動、文化面、学校等に関わる多様な問題や実践されている状況を受け止める姿勢が西宮市にはあると感じています。
- 今までの西宮市の歴史と文化を建設的に引き継ぎつつも、「SDGs」の理念をすべての市民と共有しながら、点在していた実践をネットワーキングするものになればと願っています。

4 令和4年度以降の実施について

令和4年度以降に、委員が提案したプログラムを実施していくにあたり、主体となる課が様々な団体等と連携・協働して実施していければと思います。地域住民が主体的に講座の企画・運営を行う「公民館地域学習推進員会」の講座でも実施するなど、既存の講座の中の一つのプログラムとして活用していくのも一つの方法だと考えます。

また、生涯学習審議会委員もプログラムの講師やスタッフとして関わるなど、自分事として、人づくり・つながりづくり・地域づくりに主体的に活躍されていくことに期待したいと思います。

学習プログラムを実施するにあたり、参加してもらう中学生の選出の方法や、障害のある方への広報の方法などを検討する必要があります。

令和3年度のプログラム作成の取組みを契機に、次年度は、公民館や図書館等で行われている様々な生涯学習事業の意義・目的を再確認しながら、学習体系を確立するとともに、今後の各教育機関のあり方を議論できればと考えています。

第4章 おわりに

SDGsの17の目標や169の達成基準をすべて2年間の生涯学習審議会の研究で網羅することはできません。そこで、この研究ではモデルとなるような学習プログラムをいくつか企画し、その実践を通してパイロット事業を展開することになりました。これまでも、問題解決プログラムの作成については多くの研究があり、多様な戦略が企てられてきましたが、本研究では、問題の定義、探索、活用というシンプルな手順を踏んでいきました。

1 問題の定義づけ

まず、ワークシートを用いた問題の理解と確認を全体で行い、プログラム企画と関連した実情の把握に務めました。最初に用いたワークシートでは、ビジョン・ゴールなどについて、各グループの討議を踏まえて、それぞれ次のビジョンとゴールを目指しました。同時に、各グループの課題と協力体制、どのような行動を起こすか、そして将来に向けてどのような問題があるかを論じました。

【各グループのビジョンとゴール】

A グループ



質の高い教育を
みんなに



住み続けられる
まちづくりを



気候変動に
具体的な対策を

B グループ



質の高い教育を
みんなに



ジェンダー平等を
実現しよう



人や国の不平等
をなくそう



平和と公正を
すべての人に

C グループ



質の高い教育を
みんなに



ジェンダー平等を
実現しよう



人や国の不平等
をなくそう



住み続けられる
まちづくりを

各グループが選択したビジョンとゴールには共通するものもあり、少しの相違もみられますが、それぞれに関連した取組みについての調査研究を以下のように行いました。

【各取組みに関する調査研究】

- ①「男女共同参画施策 西宮市の現状等について」（講義）

講師：男女共同参画推進課

- ②「事業所の概要説明」（ヒアリング）

「障害者の就労生活の支援等について」（講義）

事業所：西宮市社会福祉協議会 「西宮市障害者就労生活支援センター アイビー」

③「事業所の概要説明」（ヒアリング）

事業所：就労移行支援事業所「みんなの大学校 西宮校」

2 継続的なプログラムの探索

上記の学習活動と並行して、学習プログラムの策定のために、学習プログラム計画書の探究活動と作成を行いました。この計画書には、企画講座の詳細として、企画講座名、形式、回数、参加予定人数、対象者、講師とスタッフ、実施の時期と場所、予算と経費、講座の具体的内容が含まれています。

この探究の段階では、生涯学習のプログラムが継続的に活用できるような工夫が委員からも求められました。

「SDGsを活用した生涯学習のプログラムは、単年度実施で終わることなく、同じ内容でも毎年自身の充実を図ったり、違うプログラムを差し替えたりして継続することで、ビジョンで掲げた幸せで温かい地域の中の点を大きくし、他の活動の点と一緒に、線になり、いずれは面になり明るい未来になると思います。」

講師や対象者をどのように選択するか、実際の時期や場所をどのように設定するか、このプロセスは、西宮市の既存の学習環境、講師や条件、予算、協力してもらえる団体など、委員だけでは把握できず、講座の実際的な企画について利用できる多様な条件や主体なども含めて、事務局や関連団体との調整が必要となりました。

3 学習プログラムの評価と活用

まだ、すべてのプログラムは企画と探究の段階にあります。一部のプログラムは、今年度内での実施も行われました。

そして、次年度の終了時における企画講座の実施と報告に向けての報告書の構成が各グループでも行われ始めています。最終報告書では、講座名、SDGsの目標、当初の課題と目的、講座の概要、成果と工夫、そして、実施の課題と今後の課題が報告される予定です。

特に、最終的な実践研究報告では、SDGsを学ぶことの効果やその活用法、そして市民性をはぐくむための取組みの評価と活用を考察し、目標としての市民性の育成がどれだけ図られたか、各委員の考えを反映し、振り返りを行っていくこととなります。

4 グループ協働活動の難しさ

審議会の各委員や事務局、そしてこのプログラムに関わる学習者にとって、それぞれの意見をどのように反映させるかという点は、従来の生涯学習プログラムの企画よりも恐らく困難な課題でもあります。17のビジョンの実践的な学習活動においては、多様な人々、多様な考え方、多様な価値観の共有化を図っていく必要があります。そこには、多様性の統合という問題が含まれます。そして、

各グループが企画するプログラムにおいては、どうしても包括的プログラムに内在する目標の分散という問題も生じます。生涯学習審議会も事務局もそれぞれが異なった立場や価値観、専門的知識をもつ以上、各グループにおける協働活動が難しいものとなります。その点、各グループのリーダーは、高いリーダーシップを持ってこのプログラムの研究の調整を行ってきました。

5 適応的な問題解決力の学習

とりわけ、今年度の審議会では、昨年度からのコロナ禍の中での審議会活動を継続しながら、新たな実践研究の課題に着手しました。そこでは、対面とリモートによるハイブリッドな学習機会と審議会運営が求められました。このような複雑な状況に適応した問題解決力の学習が、今後更に求められています。

例えば、文部科学省の新たな学習指導要領では、小学校から高校にいたる各段階で知識の「習得・活用・探究」とともに、探究的な学習活動の重要性が述べられています。

「新しい学習指導要領では、児童生徒が実社会・実生活の中から主体的に課題を見つけ、その解決に向けて多様な他者と協働しながら、情報を収集・分析し、解決策をまとめ・表現する探究的な活動を重視している。」(文部科学省, 2019, 「中央教育審議会答申」 p.36) ※1

探究的学習には課題の発見や解決のための活動が含まれています。この探究的な学習の方法としては、次の3つが挙げられています。

- 「(1) 探究的な学習の過程において、課題の解決に必要な知識及び技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、探究的な学習のよさを理解するようにする。
- (2) 実社会や実生活の中から問いを見だし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができるようにする。
- (3) 探究的な学習に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、積極的に社会に参画しようとする態度を養う。」

(文部科学省、2017、小学校学習指導要領【総合的な学習の時間編】 p.8) ※2

学習指導要領は、学校教育の中で子供たちに求める学習内容を示すものですが、生涯学習という視点から考えれば、成人にもまたこれからの時代に、このような探究的学習や問題解決力の学習が求められます。

そこで最後に、市民に求められる適応的問題解決力の一つのモデルとして、令和4(2022)年度に実施される予定の国際成人力調査(PIAAC)にみられる成人力の考え方を紹介しておきます。この調査研究では、状況変化に応じた問題解決力として、適応的問題解決という概念が考えられています。

「適応的問題解決(Adaptive Problem Solving)※³は、変動する状況の中で、解決法が直接利用できない場合において自分の目標を達成する力である。問題を定義し、情報を探し、多様な情報環境や文脈の中で解決策を適用するための認知的かつメタ認知的プロセスに関わることが求められる。」(OECD,2017)※⁴。

このプログラムでいえば、実際の問題解決上の課題にこのプログラムがどれだけ応えることができるかを評価し、各問題についての日常生活で具体的な方法を考えて行くことが重要になります。また、学習プログラムの改善を図り、組織間での調整の問題、客観的な指標の新たな設定を行いながら、振り返りを行うことが重要といえるでしょう。

6 SDGs 達成のための客観的評価や学習資料の必要性

ただし、このような問題解決力を市民がどの程度持ち、また持つように成長しているか、についての客観的測定は、成人学習や生涯学習の国際的研究の結果を待つ必要があります。しかし他方で、近年は、学習においても、政策においても、その実践から得られた成果がどれだけ目標に応じて達成されているかの客観的評価が求められるようになってきています。各自治体、学校や家庭、地域が SDGs の数値的目標を設定し、その達成度評価を自主的に行うことが理想です。実際に、SDGs の目標達成について、多くの国や自治体、地域が CO2 の削減など 17 の目標に応じて、具体的な数値的目標を掲げる例がみられます。社会教育統計では、公民館における SDGs 学習への参加者数、事業数など、図書館統計では、SDGs に関わる蔵書冊数、貸出数、西宮市の大学における SDGs 関連の講座数、NPO の数などをあげていくことができます。

また、SDGs に関わる学習を行うためには、市民に多くの学習資料を提供していく必要があります。西宮市の各担当課においては、相当の SDGs に関わる学習資料が作成され、配布されていることはいままでのないですが、その資料をまとめて図書館へ保存し活用し、市のホームページでそのような学習資源を電子資料としてオープンにしていく作業も重要でしょう。いくつかのプログラムを企画しただけの段階から、このような目標をあげるのは早計かもしれませんが、今後の課題の1つとして提示しておきます。

7 最後に

今年度の審議会は、例年と異なり、審議会活動の一環として、学習プログラムの作成を行いました。社会教育委員会議の時代も含めて、異例の取組みとなりましたが、本市の生涯学習の推進にとって、新しい一歩を踏み出す取組みであったと考えています。

学識経験者である委員と、生涯学習の各分野における実践者である委員が協力し、市民からの意見を反映させながら、机上での意見交換だけでなく、具体的に、テーマや対象者を設定して、社会教育に取り組む姿勢を示しました。また、「SDGs」という国際的な共通目標をテーマに議論し、プロ

グラムを作成したことは、庁内各部署が連携し、全庁的な生涯学習を推進する観点からも必要な取り組みだったと考えております。

西宮市は、それぞれの部署がレベルの高い社会教育事業を展開していますが、SDGsのような事業間にわたる取組みを行うためには、生涯学習の部署間の情報共有がまだまだ不十分です。この取組みを十全に行うためには、行政の各部署の取組みが何を目標しているのかについて、SDGsの自己評価点検の指標を設定し、客観的に捉え直してイノベーションを図るなど、今までの西宮市の積上げを引き継ぎつつ、SDGsの理念を市民と職員で共有し、点在している実践活動を行政分野でも支援できるようなパートナーシップの形成の重要性を最後に提言いたします。

本実践研究の成果から、西宮市の市民性の育成への手がかりが、少しでも得られることを期待します。

参考文献

- ※1 文部科学省 中央教育審議会答申(2019)「新しい時代の教育に向けた持続可能な学校指導・運営体制の構築のための学校における働き方改革に関する総合的な方策について」
- ※2 文部科学省 (2017)「小学校学習指導要領【総合的な学習の時間編】平成 29 年告示」
- ※3 Greiff et al.,2017, “Adaptive Problem Solving: Moving towards a new assessment domain in the second cycle of PIAAC”, OECD Education Working Paper No.156
(<https://dx.doi.org/10.1787/90fde2f4-en> 2022/01/20 取得)
- ※4 OECD は、問題解決能力の定義を※3 を参考にしてまとめている。
(<https://www.oecd-ilibrary.org/sites/3a14db8b-en/index.html?itemId=/content/component/3a14db8b-en#section-d1e21037>,2022/01/20 取得)

資料編

SDGs を活用した学習プログラムの作成経過

(1) 第1期生涯学習審議会委員名簿

| 選出区分 | 名 前 | 所 属 ・ 役 職 | 備 考 |
|-------------------|---------|----------------------|---------|
| 学校教育関係者 | 飯 干 英 典 | 西宮市立中学校長会（平木中学校長） | |
| 社会教育又は 家庭教育関係者 | 田 中 由 紀 | 西宮市PTA協議会副会長 | 令和3年4月～ |
| | 三 澤 幹 之 | 西宮市スポーツ推進委員協議会会計 | |
| | 川 本 輝 子 | 西宮市子ども会協議会会長 | |
| | 田 中 理 | 西宮芸術文化協会代表運営委員 | |
| | 森 郁 子 | 西宮市青少年愛護協議会会長 | 副会長 |
| 学識経験者 | 佐 藤 智 子 | 東北大学高度教養教育・学生支援機構准教授 | |
| | 立 田 慶 裕 | 神戸学院大学人文学部教授 | 会長 |
| | 服 部 泰 宏 | 神戸大学大学院経営学研究科准教授 | |
| | 本 多 千 明 | 武庫川女子大学教育学部講師 | |
| 市民 | 吉 田 昌 明 | 公募委員 | |
| | 大 部 彩 香 | 公募委員 | |

(2) 会議開催経過

| 開催日 | 会 議 | 議 題 |
|------------|------------|---|
| 令和3年4月22日 | 第1回生涯学習審議会 | ・SDGsを活用した学習プログラムについて （意見交換） |
| 令和3年6月10日 | 第2回生涯学習審議会 | ・SDGsを活用した学習プログラムについて （概要説明等） ・「男女共同参画施策 西宮市の現状等について」 （講義） ・SDGsを活用した学習プログラムについて （グループワーク） |
| 令和3年8月5日 | 第3回生涯学習審議会 | ・「障害者の就労生活の支援等について」（講義） ・SDGsを活用した学習プログラムについて （グループワーク） |
| 令和3年10月28日 | 第4回生涯学習審議会 | ・SDGsを活用した学習プログラムについて （中間報告） |
| 令和4年2月10日 | 第5回生涯学習審議会 | ・SDGsを活用した学習プログラムについて （実施報告） ・第1期生涯学習審議会研究報告書（案）について |
| 令和4年4月21日 | 第6回生涯学習審議会 | ・第1期生涯学習審議会研究報告書（案）について |

